

仕事が楽しい人 F i l e . 7 : 友倉由美子さん (役者)

◆友倉由美子さんが役者を目指したのは

役者は人気業種。多くの人たちが映画やTVへの出演を目指し努力を重ねていますが、この夢は、ほんの一握りの人にしか叶えられない、厳しい世界です。今回、ご紹介する友倉由美子さんは、20歳の時にアイドルを志して広島から上京しました。

モデル・アイドル系の事務所に所属し、109のポスターのモデル、とんねるずが出演するTV番組のアシスタントを務めたこともありましたが、ある時、知人からの紹介で演技指導のワークショップに参加したことがきっかけとなり、本気で、役者を目指すようになりました。このワークショップでは、「これ、あなたのなの？」という、一言のセリフにどんな意味を持たせて表現するのかを、尋ねられました。友倉さんは、この質問に明快に答えられませんでした。

“一言一言の言葉には、深い意味がある”

この基本中の基本も押さえずに、与えられた役を演じてきた自分が、何も努力していないことに、友倉さんが気づかされた瞬間でした。

このことをきっかけとして、友倉さんは小劇場に通いつめます。舞台演技を学ぶのと同時に、その小劇場に出演している劇団に、「私も出させていただけませんか」と自分を売り込む直談判をしたのでした。所属事務所も変わり、友倉さんの役者人生が、本格的にスタートしました。

友倉さんが、役者の仕事に意義を見出したのは、俳優の岸谷五朗さんと寺脇康文さんによる演劇ユニット、地球ゴージャスが公演した『クラウディア』の観劇でした。友倉さんは『クラウディア』を観て、その理由を言葉に表せないとのことですが、生きる勇気を与えられたのでした。

この時に、友倉さんは思いを巡らせました。

一つの演劇が、ある人が何かをつかむきっかけなる。

何かとは、人それぞれのもの。

それが、勇気でも、使命感でも、何でもかまわない。

『クラウディア』の観劇によって、友倉さんは「自分の演技が、観た人の何かのきっかけになって欲しい」という役者としての目標が、明確に定まりました。

◆友倉由美子さんが大切にしているキーワード

・存在意義

人に必要とされることが、私が生きている意味である

・やめることは簡単。継続は力なり

中学校時代の体育の先生からの教え。

役者としては、誰よりもへたくそで、自分自身恥ずかしくなりことも数々あったが、へこたれず、あきらめずに、続けてきたことで今がある。

◆友倉さんのコツコツ（継続していること）

ワークショップへの参加

24歳の時から今日まで継続して参加し、演技力を磨いている。

野菜中心の食生活

毎朝、キャベツの半分を食べる食生活を10年間続けている。

日本舞踊

着物の着こなし、身動きの基本が身につき、時代劇の演技で役立つ。

自転車移動

自宅から40分～50分圏内は、ママチャリを使用している。

造顔マッサージ

田中宥久先生の造顔マッサージで、顔やせ、小顔をキープしている。

◆友倉さんのパワー○○

ニコル君 1歳4カ月のチワックス

◆友倉さんの愛用グッズ

バランスボール

体幹を常に鍛え、体型と姿勢を整える。

ノート&三色ペン

気がついたこと、気になったことを、いつもでどこでもメモする。

◆平堀が感じ取った友倉さんのプロ魂

7月は“なでしこジャパン”がワールドカップを制し日本中が盛り上がりましたが、彼女たちの年収が想像以上に低い事実も露わになり、「もう少し何とかできないのか」と話題になりました。役者もご多分に漏れず、食べていくための収入を得られる人はごく少数です。ちなみに、友倉さんが役者という仕事を通じて得られる収入は、年間40万円から50万円。副業で生計を補いながら役者を続けています。

友倉さんは「自分の演技が、観た人の何かのきっかけになって欲しい」という目標を掲げ、役者をしています。言われてみると、私も映画やTVドラマを通じて、“何かをつかんだ”記憶があります。

我々聴衆に“何かをつかんでもらう”ために、役者は、役を演じています。役を演ずるとはと思いを巡らせていると、三國連太郎さんが33歳の時に、80歳の老人を演じるために、10本の歯を抜いたというエピソードを思い出しました。(主演映画『異母兄弟』1957年)まさに、プロ魂です。

実は、取材を通じて、友倉さんから、このプロ魂を感じました。その第一番目の出来事は、取材のための準備をしてこられたことです。過去の“仕事が楽しい人File”のコラムを読み、それぞれの項目ごとに、友倉さんご愛用のノートにぎっしりとメモをしていました。次に、“一言一言の言葉には、深い意味がある”の説明にあたり、友倉さんは、「これ、あなたのなの？」というセリフの表現の違いを、私の目の前で、演じて見せてくれました。取材場所は、喫茶店。周囲には、もちろん他のお客さんも座り懇談していましたが、友倉さんは何も気にせずに、演じていました。最後に、友倉さんのコツコツ(継続していること)です。5つという数もさることながら、役者業を全うしようという真剣さが伝わるコツコツです。

友倉さんは、8月20日封切りのロードショウ 監督 SABU 主演 松山ケンイチ 芦田 愛奈 『うさぎ ドロップ』 に出演します。どのような役かは伺っていませんが、映画館に足を運び、映像に登場する友倉さんを探してみます。

結びに、友倉さんのお話で印象に残ったエピソードを記します。それは、2009年に上映された『カムイ外伝』で、友倉さんがロザ役を演じた時の出来事です。撮影を終えると方言指導の先生に、「がんばんな」って声をかけられたのだそうです。ロザ役を演じるものの、カメラに収まらないシーンを見ての一言でした。「がんばんな」は、褒める意味合いで発せられた言葉なので、この気持ちを込めて読んでみてください。映らなくても迫真の演技をする。そして、その様子を見ていた人が、ひと声かける。まさに、プロ同士の関わりが、そこにはあります。

#### ◆友倉さんのプロフィール

職業： 役者

所属：株式会社 JFCT( <http://www.jfct.co.jp/>)

#### ◆役者ってどんな仕事？

(13歳からのハローワーク公式サイトに掲載されている村上龍氏の解説がわかりやすいので抜粋しました。職業分類は、映画俳優になります。)

かつて日本映画全盛のころは映画俳優という確固たる職業があったが、今は死語に等しい。つまり映画への出演だけで生活の糧を得ている日本の俳優はほとんどいない。テレビドラマに出たり、テレビCMに出たり、舞台に出たりしながら映画出演の機会をうかがうのが一

般的だ。しかしなかには映画のスクリーンだけにモチベーションを持つ数少ない俳優たちもいる。映画全盛期のように撮影所システムが機能していれば、撮影所が抱える「新人」としてデビューすることができたが、今はそれも不可能。映画俳優を志す人は、新作のオーディションに応募するか、芸能プロダクションの門を叩くか、学生映画に出て注目されるか、そのくらいしか方法がない。女優の場合、映画に出してやるよ、とって近づいてくる悪い人が大勢いるので注意が必要。本当に映画に出演させるだけの実力のあるプロデューサーや監督は、自分でリスクを負わなければならないので、映画に出してやるよ、などとは決していわない。

◆役者に求められる能力

オーラ：人を惹きつける力（理屈を超えて、聴衆を魅了する人間的な魅力）

体力：ハードスケジュールに耐えられる強靱な力

精神力：どんな状況でも役になり切って演技する力（暑くても汗を止める力）

行動力：役を手に入れるために粘り強く、繰り返しオーディションを受ける力

感受性：役になり切る力

イメージネーション：役を想像し、演技を創造する力